



小野 幸男 議員

- 1、野蒜・宮戸地区の取り組みを問う
- 2、教育問題を問う



▲家族みんなで予防しよう!!

Q ①野蒜ヶ丘東名駅前の空き区画の今後の利活用を問う。
 ②東名運河南側（主に洲崎地区）の跡地利用の進捗は。
 ③野蒜駅前のトイレ設置とファミリーマート閉店の取り組みを問う。
 ④野蒜市民センター周辺の活性化策と行政から地域やまちづくり協議会へ

A 市長 ①将来の利活用を想定し、本市に住宅を求める方が多く、一般住宅への分譲を

の提案について。
 ②かんぽの宿松島の跡地は無償譲渡に向け協議が整いつつあり、農地や湿地再生事業も含め、有効な利活用策を検討する。
 ③財源確保が困難なため、観光物産、市民センター、野蒜駅舎内へのトイレに誘導する看板を設置する。ファミリーマート閉店後は震災復興伝承館として

A 教育長 ⑥危機意識をもち対応し、正確な情報を指示する。
 ⑦授業への意識の高まりの事例を共有し、学力向上に努める。



▲新たな活用も期待される震災復興伝承館

Q 野蒜・宮戸地区の取り組みは
A 地区内の一層の活性化を図る



充実を図り公社とも協議する。
 ④さまざまな団体や事業者やPRに努める。また行政から地域への提案事項は他地区の皆さんとも協議し検討する。
 ⑤県の事業として捉え、地元県議の理解と協力を求める。



手代木せつ子 議員

- 1、地域おこし協力隊について
- 2、インフルエンザ予防接種の助成について

Q 一、先日、市内の地域おこし協力隊らが主催する、宮戸室浜出身の「儀兵衛と太郎を語る会」が宮戸の県松島自然の家を会場に開催された。
 市内外から約100人が参加し日本人で初めて世界一周をした千石船「若宮丸」の乗組員16人の漂流体験談を、史実に

基づいて詳しく知ることができた。そこで、地域おこし協力隊について次の事項について伺う。
 ①どのような分野で活動を期待し募集しているか
 ②その効果は。
 ③定住への支援策は。
 二、18歳までのインフルエンザ予防接種を希望する市民に対し、費用を助成する考えはないか。

A 市長 一、①本市への定住や企業等につながることを期待し観光やコミュニティスクールの分野で募集し、現在15人が活動している。
 ②地域活性化や本市の魅力発信に大いに寄与していただいております。既に起業、定住し市内で活動されている方もいます。
 ③移住・定住に当たって

は「住まい」と「仕事」をセットに考えることが重要で、住宅購入に関する補助金、起業する際の補助金、創業支援補助金それぞれ上限100万円と情報提供し、そのほかさまざまな相談対応等に努める。
 二、18歳以下の医療費は無料だが、費用は市が負担している。予防を講じて患者が少なくなれば医療費の軽減になるので、来年度からの実施に向け検討したい。

Q インフルエンザ予防接種の助成は
A 18歳以下の助成対象を検討

